

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	パークウェルステイト千里中央	階数	地上12F、地下1F
建設地	大阪府豊中市	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、第1種住居地域	平均居住人員	1,168 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年11月15日
敷地面積	17,909 m ²	作成者	山岡 郁也
建築面積	7,488 m ²	確認日	2022年11月15日
延床面積	45,120 m ²	確認者	稲野 克久



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>■建設 ■修繕・更新・解体 □運用 □オンサイト □オフサイト</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.4</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.1</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 3.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.4</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>大阪府豊中市に計画される有料老人ホームの計画である。中庭・屋上、敷地周辺に緑化を施すことで、施設利用者のみならず周辺住民にとっても快適な環境を創造している。</p>	<p>その他</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>個室にはカーテンの設置や底替わりとなるバルコニーを設け、グレアの低減を図っている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>耐用年数の長い材料を採用し建物の維持管理に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>外構緑化に積極的に取り組んでいる。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>高効率な設備システムを導入し、省エネルギーに配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>躯体と仕上げ材が容易に分別可能な設計を行っている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LCCO₂削減に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 パークウェルステイト千里中央

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40		-	2.4
1 音環境						1.6	0.15	1.7	1.00	1.6
1.1 室内騒音レベル		-				1.0	0.40	1.0	0.40	
1.2 遮音						2.4	0.40	2.8	0.40	
1 開口部遮音性能		-				3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-				2.0	0.60	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		病室:Lr-30					-	5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-					-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-				1.3	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境						1.6	0.35	1.6	1.00	1.6
2.1 室温制御						2.3	0.50	2.2	0.50	
1 室温		-				1.0	0.38	1.0	0.57	
2 外皮性能		断熱性能の高い建材の採用				4.0	0.25	4.0	0.43	
3 ゾーン別制御性		-				2.6	0.38		-	
2.2 湿度制御		-				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式		-				1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境						2.3	0.25	3.3	1.00	2.9
3.1 屋光利用						3.7	0.30	4.2	0.30	
1 屋光率		病室:1.25%以上				4.2	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-					-		-	
3 屋光利用設備		-				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	4.0	0.30	
1 屋光制御		病室:カーテン、庇の2種類を組み合わせて制御				1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		-				1.0	0.15	1.0	0.15	
3.4 照明制御		-				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.2	0.25	3.5	1.00	3.3
4.1 発生源対策						4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		全面的にF☆☆☆☆の建築材料を採用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						2.0	0.30	2.6	0.38	
1 換気量		-				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上					-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		-				1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視		-					-		-	
2 喫煙の制御		-				3.0	1.00		-	
Q2 サービス性能							0.30			3.1
1 機能性						2.8	0.40	4.4	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ						1.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		個室:10㎡/床以上					-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-					-		-	
3 バリアフリー計画		-				1.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観		個室天井高:2.5m					-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-					-		-	
3 内装計画		コンセプトを反映した内装計画、内観パースの作成による検証等				5.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理						3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計		-				3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		-				3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-				3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能		-				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		-				3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-				2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:タイルカーペット、ビニル床シート、浸透性表面硬化剤(20年) 壁、天井:ビニルクロス、無機質壁紙(20年)				5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-				3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3位の2種以上にC以上を使用				4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-				3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						3.0	0.20		-	
1 空調・換気設備		-				3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		-				2.0	0.20		-	
3 電気設備		-				3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA				4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		-				3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			2.4	0.30	2.2	1.00	2.3
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30	1.4	0.50	
1 階高のゆとり	-		1.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	【共用】壁長さ比率:0.24		4.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり	-		2.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出	積極的な外構・建物緑化		4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	まちなみ調和に配慮した景観計画		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制	-		2.6	0.20	-	-	2.6
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.47		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水	-		1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減	プレートナット工法、ハイベース、HND工法、STBC-SRⅡ杭の採用		4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能な構造		4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	壁紙用接着剤にPRTR法対象物質を含有しない		4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率の低減		4.7	0.33	-	-	4.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	適切な駐輪・駐車スペースの計画		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	2.0	○	○	○	○	○	-	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	4.0		○	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	○	○	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	-	-	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	11.0		2.0	-	3.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	-	-	1.0	-	1.0					
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	1.0	1.0	3.0	2.0	2.0	-	2.0	-				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	4.0		-	-	4.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	-	-	2.0	3.0	2.0	-	1.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-							
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		-	2.0											

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC 0.3 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム 3.3 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 7.1%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.1%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0m ² /人 病床 10.0m ² /床 シングル .0m ² ツイン .0m ²
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/m ²
1.2.1 広さ感・景観	天井高 2.5 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 15 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 3.07 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 24.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 1800 N/m ²
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 84% 建物緑化指数 13%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 58% 水平投影面積率 11% 地表面対策面積率 59% 舗装面積率 19%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.98 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m ² 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.47 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 229% 隣棟間隔指標Rw 0.50 地表面対策面積率 77.0% 屋根面対策面積率 29.0% 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 3.121m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 134.811 m 基準高さHb 10.07 m 緑地 7.721m ² 水面 417m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²